

| 宇部工業高等専門学校   |  | 開講年度                                  | 令和02年度 (2020年度)                        | 授業科目   | 技術経営論 |
|--|--|---------------------------------------|--|--|-------|
| <b>科目基礎情報</b>  |  |                                       |  |  |       |
| 科目番号   | 0112   |                                       | 科目区分                                   | 専門 / 選択  |       |
| 授業形態   | 講義   |                                       | 単位の種別と単位数                              | 履修単位: 1  |       |
| 開設学科   | 経営情報学科   |                                       | 対象学年                                   | 5  |       |
| 開設期  | 前期   |                                       | 週時間数                                   | 2  |       |
| 教科書/教材   | なし。パワーポイントの資料等を配布する。   |                                       |  |  |       |
| 担当教員   | 根岸 可奈子   |                                       |  |  |       |
| <b>到達目標</b>  |  |                                       |  |  |       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各国特有の技術経営の特徴を説明することができる。</li> <li>・ 企業における経営戦略としての技術の役割を説明できる。</li> <li>・ 企業における技術経営の事例を分析し考察することができる。</li> </ul> |  |                                       |  |  |       |
| <b>ルーブリック</b>  |  |                                       |  |  |       |
|  | 理想的な到達レベルの目安   | 標準的な到達レベルの目安                          | 未到達レベルの目安                              |  |       |
| 評価項目1  | 日米およびアジア地域で展開されている技術経営の特徴を説明し、独自の考察を示すことができる。  | 日米およびアジア地域で展開されている技術経営の特徴を説明することができる。 | 技術経営におけるどの国の特徴も説明することができない。            |  |       |
| 評価項目2  | 学習理論や組織論を踏まえて技術経営における戦略を説明し独自の考察を行うことができる。   | 学習理論や組織論を踏まえて技術経営における戦略を説明することができる。   | 学習理論や組織論に関連した技術経営における戦略に関する用語の説明ができない。 |  |       |
| 評価項目3  | 技術経営に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い分析をし、考察することができる。   | 技術経営に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い分析することができる。   | 技術経営の実例とその他の事例の判別がつかない。                |  |       |
| <b>学科の到達目標項目との関係</b>   |  |                                       |  |  |       |
| <b>教育方法等</b>   |  |                                       |  |  |       |
| 概要   | 第一学期開講<br>技術経営論は、企業内に生まれた技術を経営上どのように活用しているのかについて明らかにする分野です。単に技術があれば企業の成長が見込めるわけではありません。本講義においては、経営の観点から企業の技術活用について事例を用いながら解説します。 |                                       |  |  |       |
| 授業の進め方・方法  | パワーポイントの資料を中心に授業を進めます。馴染みにくい分野の話が出てくるため、事例を多く用いますが、各事例が何を示そうとしているのかに留意して読み取ってください。   |                                       |  |  |       |
| 注意点  | 試験の配点が大きめであるが、基本事項の確認が中心となるため、毎回指摘されるポイントを落とさないよう理解するように意識してください。  |                                       |  |  |       |
| <b>授業計画</b>  |  |                                       |  |  |       |
|  | 週  | 授業内容                                  | 週ごとの到達目標                               |  |       |
| 前期   | 1stQ   | 1週                                    | 講義紹介                                   | 講義の進め方や評価方法について説明できる。  |       |
|  |  | 2週                                    | 技術経営が求められる背景                           | 主に現代日本企業における技術経営の重要性について説明できる。   |       |
|  |  | 3週                                    | 日米における技術経営の違い                          | 各国の文化や経済、社会的背景を踏まえて国による経営の違いを説明できる。  |       |
|  |  | 4週                                    | 技術経営と生産システム                            | コンカレント・エンジニアリングおよび水平的・垂直的統合システムについて説明できる。  |       |
|  |  | 5週                                    | イノベーション                                | イノベーションを通じて行われる製品開発プロセスおよび各「関門」の特徴を説明できる。  |       |
|  |  | 6週                                    | 技術と製造物責任                               | どのような工夫を行うことで、消費者が安全に利用できる製品を製造できるか説明できる。  |       |
|  |  | 7週                                    | 定期試験                                   |  |       |
|  |  | 8週                                    | 試験解説および事例 (VTR)                        | 自身の学習の成果を確認するとともに、間違っているところがあれば、解説を聞き、自分で直すことができる。また、実際のビジネスについて映像を通じて触れ、当該企業の工夫やポイントを見出し説明できる   |       |
|  | 2ndQ   | 9週                                    | マーケティング                                | エンジニアリング・ブランドとは何かを説明できる。また、4Pをベースにしたマーケティング戦略について技術がどのように活用されているのか、また各段階においてはどのような留意点があるのか説明できる。 |       |
|  |  | 10週                                   | アーキテクチャー                               | 産業構造とアーキテクチャーの関係を事例を挙げながら説明できる。  |       |
|  |  | 11週                                   | 技術移転と海外研究開発                            | 国際的な経営組織内における技術移転の優位性について説明できる。  |       |
|  |  | 12週                                   | 新技術と倫理的課題                              | 新技術がもたらすメリットとデメリットについて、倫理的側面から議論することができる。  |       |
|  |  | 13週                                   | 学生による発表1                               | 興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。  |       |
|  |  | 14週                                   | 学生による発表2                               | 興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。  |       |
|  |  | 15週                                   | 定期試験                                   |  |       |
|  |  | 16週                                   | 試験返却                                   | 自身の学習の成果を確認するとともに、間違っているところがあれば、解説を聞き、自分で直すことができる。   |       |
| <b>モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標</b>   |  |                                       |  |  |       |
| 分類   | 分野   | 学習内容                                  | 学習内容の到達目標                              | 到達レベル  | 授業週   |

| 評価割合    |    |    |      |     |
|---------|----|----|------|-----|
|         | 試験 | 発表 | レポート | 合計  |
| 総合評価割合  | 90 | 5  | 5    | 100 |
| 基礎的能力   | 40 | 0  | 5    | 45  |
| 専門的能力   | 50 | 3  | 0    | 53  |
| 分野横断的能力 | 0  | 2  | 0    | 2   |